

＜森林整備の方向＞

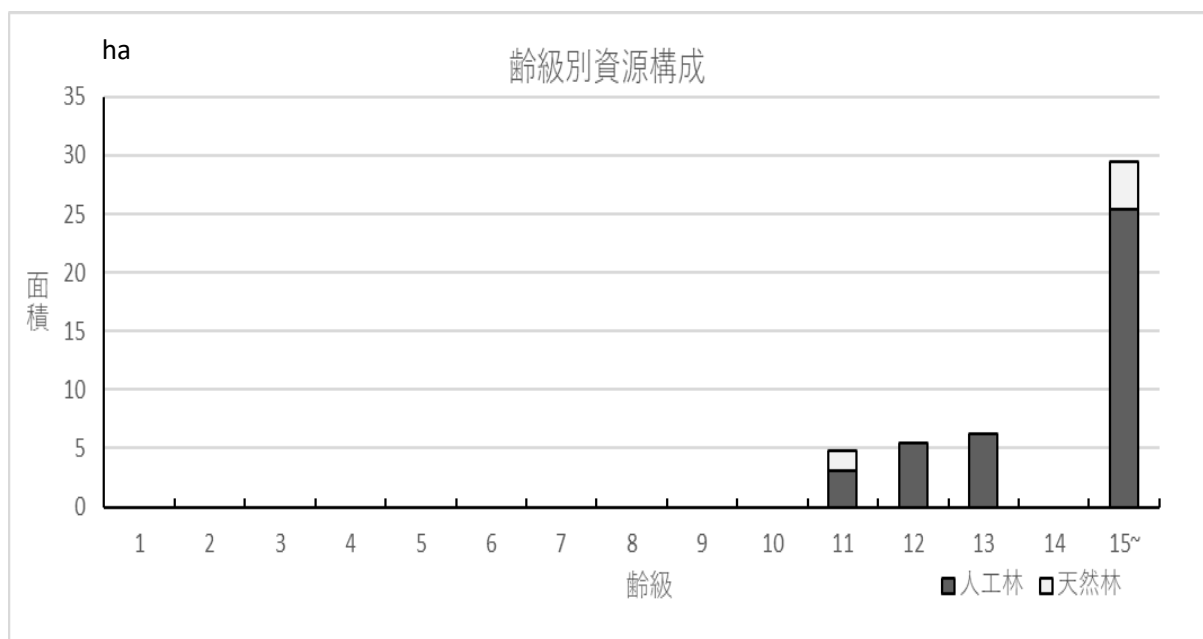
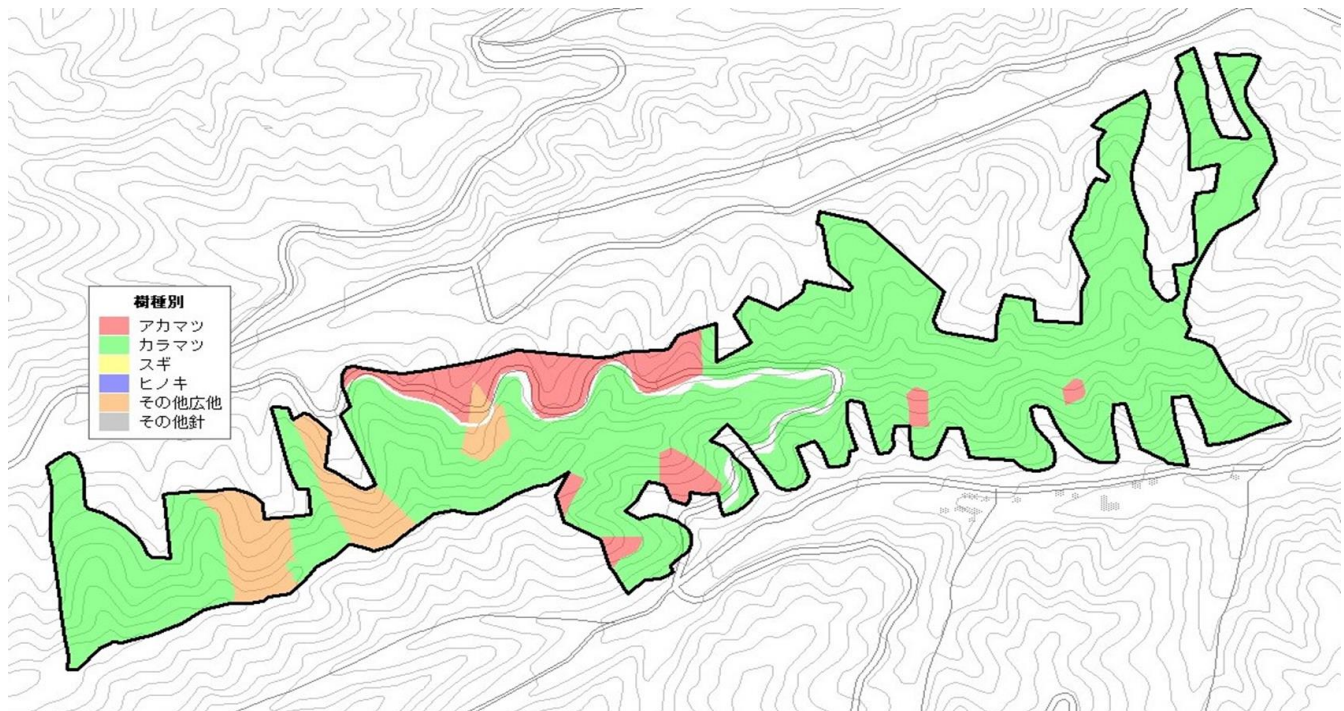
林道西山線と作業道切原線を中心に、傾斜が25度以下の林分においては、効率的木材生産型施業として主伐を行い、その後、カラマツの再造林を行います。

傾斜が25度を超える林分においては、帯状伐採や小面積分散型施業を実施し、カラマツの再造林を行います。

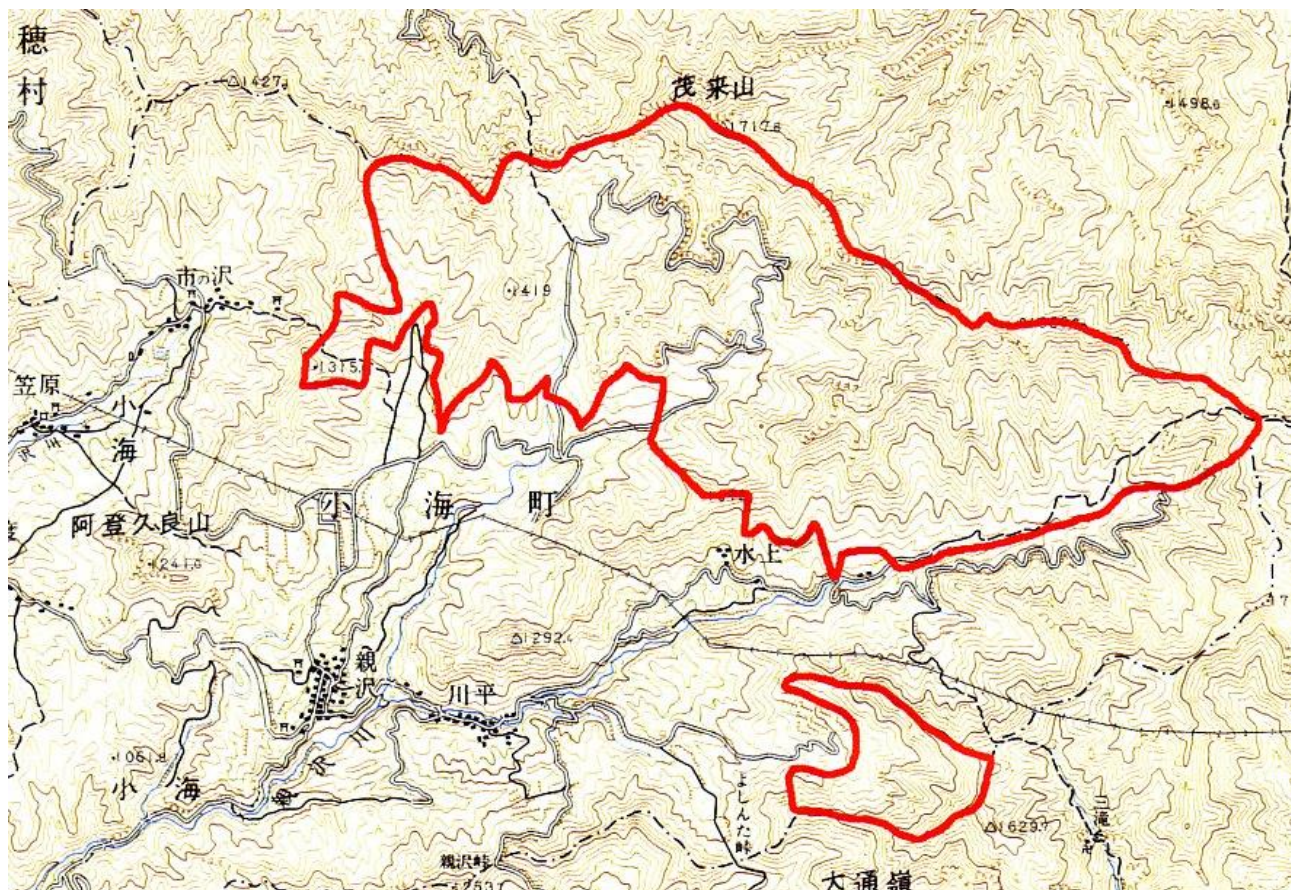
＜樹種別資源構成＞

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
48.33		3.18		38.71		3.9	2.54
100%		7%		80%		8%	5%



小海県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(十石峠)を使用したものである。

<沿革>

小海県有林は、小海町の北側茂来山の南斜面に広がる団地と馬場山と呼ばれる団地の2箇所からなる県有林で、標高1,200mから1,700mに位置しています。森林面積は約760haと、本郷県有林に次ぐ県下で2番目に大きい県有林です。

明治39年3月31日、本県で3番目に創設された県有林で、地元の親沢・川平地区の人々による小海県有林保護管理組合との密な協力関係の下に、囑託林、直営林、部分林のほか、昭和50年に制定の特殊施業林など様々な形態をとりながら管理されてきています。

<現況・特色>

素性のよいカラマツが育ち、林道茂来線沿線には、昭和元年植栽の97年生のカラマツ大径木60本が残され普通母樹林に指定されています。

また、当県有林のアカマツ林内ではマツタケが発生するため、採取権の販売を行っています。

さらに、間伐によって吸収された二酸化炭素量を、環境省のJ-クレジット制度によりクレジット化し、環境貢献に取り組む県内外の企業等へ広く販売するなど、多面的な活動を展開しています。



<森林整備の方向>

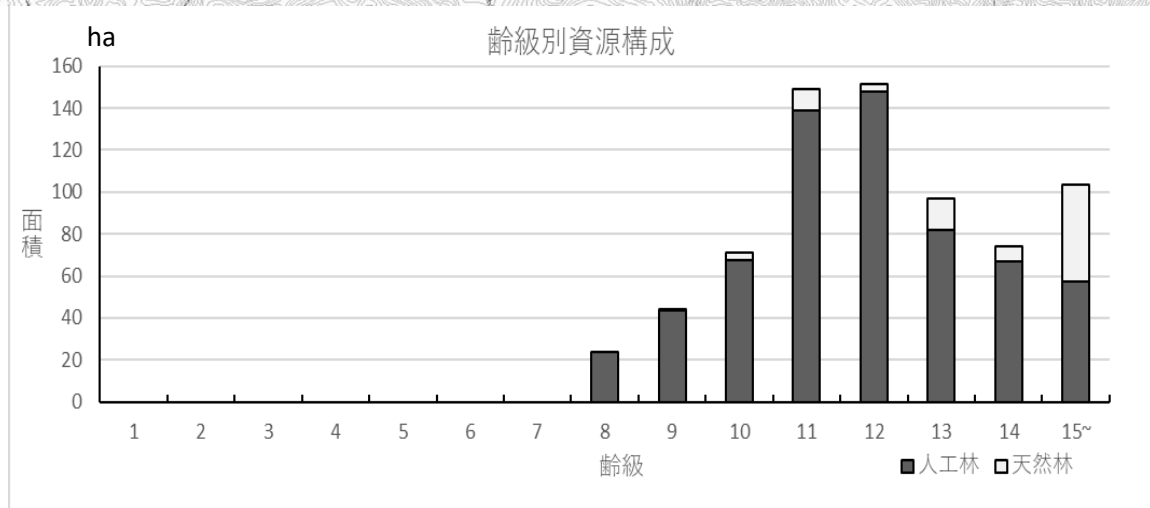
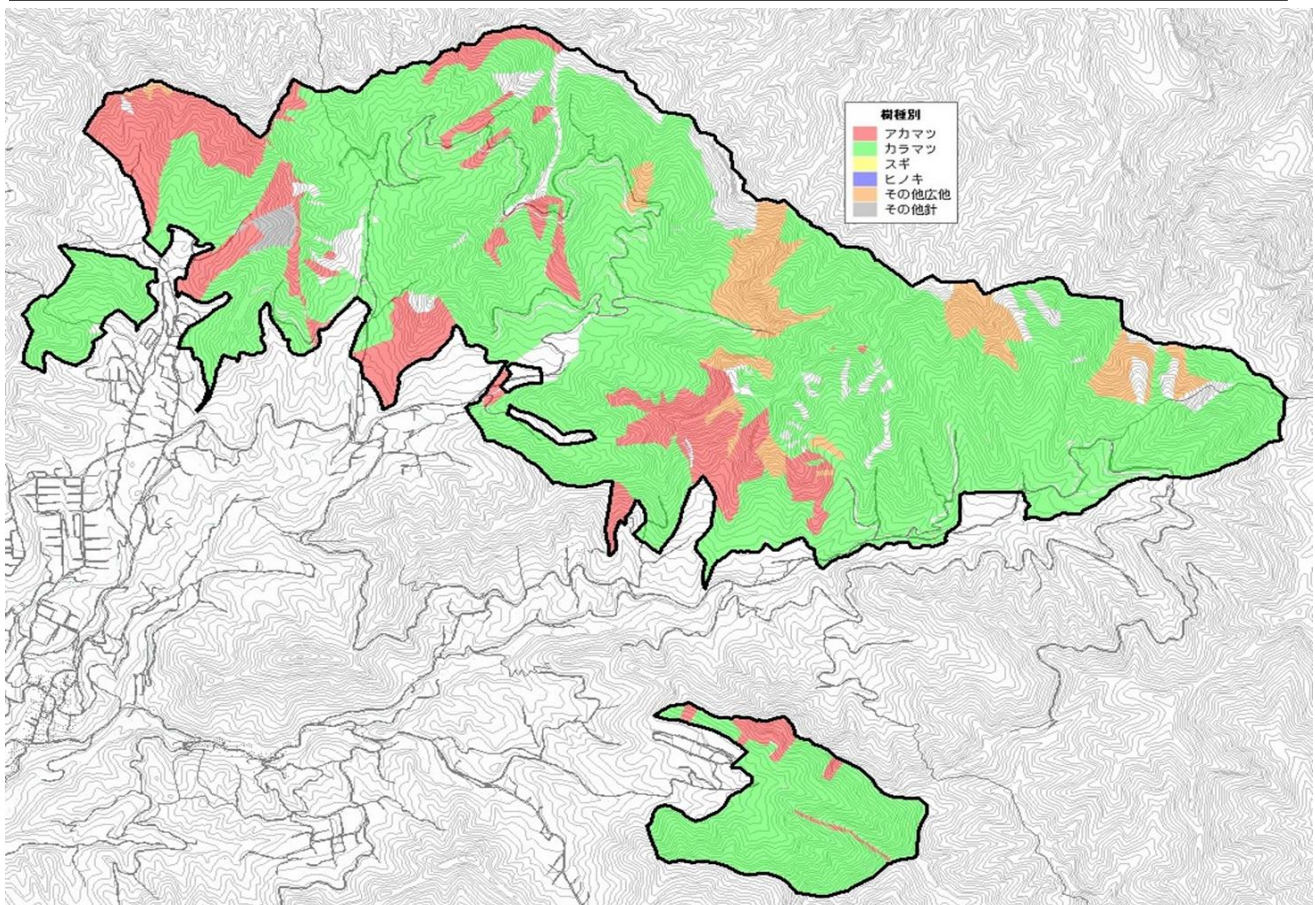
当県有林は林道が整備されているため、傾斜が比較的緩やかで伐期を迎える林分においては、効率的木材生産型施業を行い、主伐・再造林の一貫した施業を検討します。また、高齢級のカラマツはプレミアムカラマツとして付加価値の創出も検討します。

傾斜が25度～35度で、路網から200m以内のカラマツ林では、帯状伐採や小面積分散型施業を実施します。林道等の路網から離れ、傾斜が急な林分では、針広混交林化を目指し、天然更新を促進します。

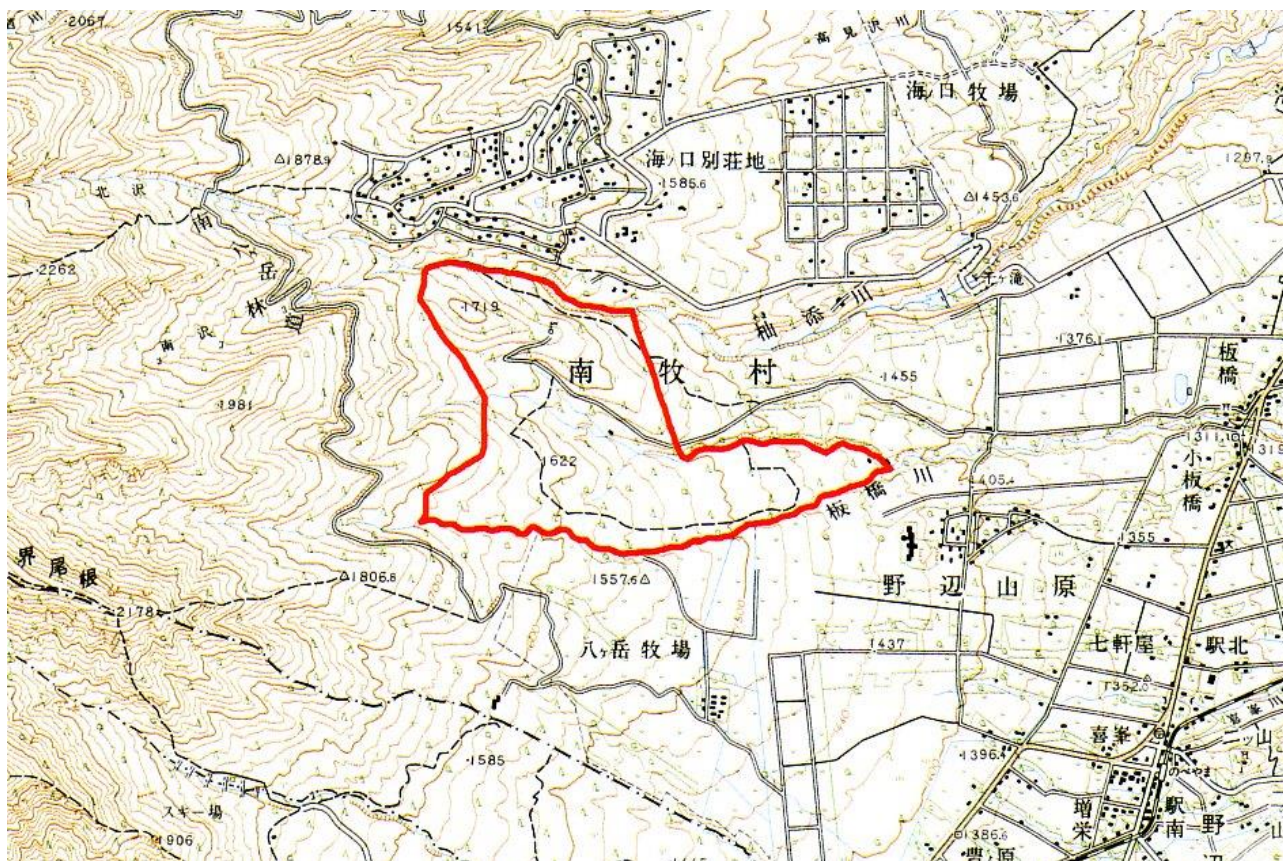
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
757.59		91.23		554.78	4.24	32.05	75.29
100%		12%		73%	1%	4%	10%



南牧県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(八ヶ岳)を使用したものである。

<沿革>

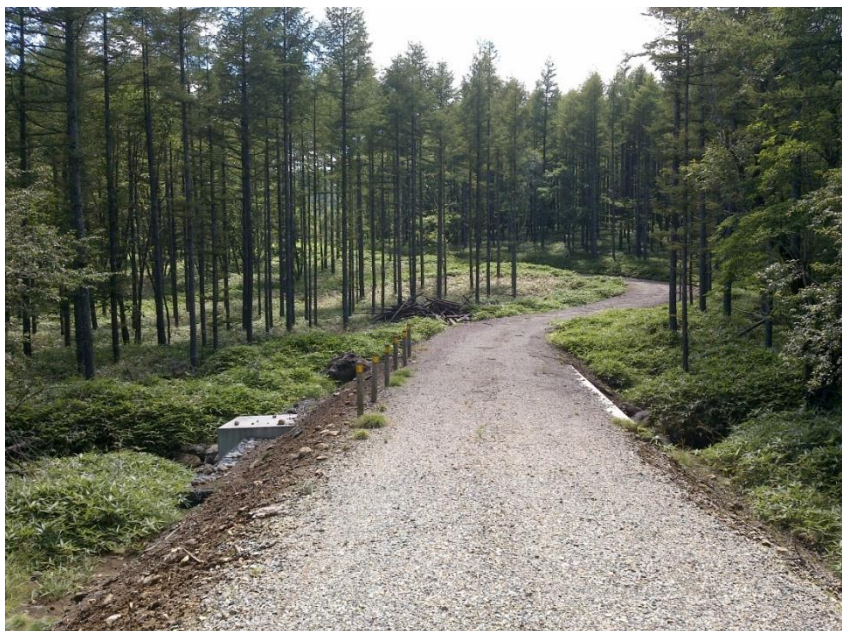
南牧県有林は、南牧村のほぼ中央にあり、標高1,540mから1,720mに位置しています。

明治45年3月13日に創設され、大正初期から昭和15年頃まで綿々としてカラマツが植栽されました。戦時中は軍用地として当時の陸軍省に提供しましたが、戦後になって開拓地として適さなかった土地を再び県有林として買戻しました。

<現況・特色>

別荘地や牧場に囲まれ地形もなだらかで、林内にはレンゲツツジやドウダンツツジなども多く見られます。

寒冷地であるためカラマツの成長はあまりよくありませんが、ミズナラやシラカバなどの広葉樹が混交している林分は、針広混交林のモデル林として森林散策等の観光資源としての活用が期待されます。



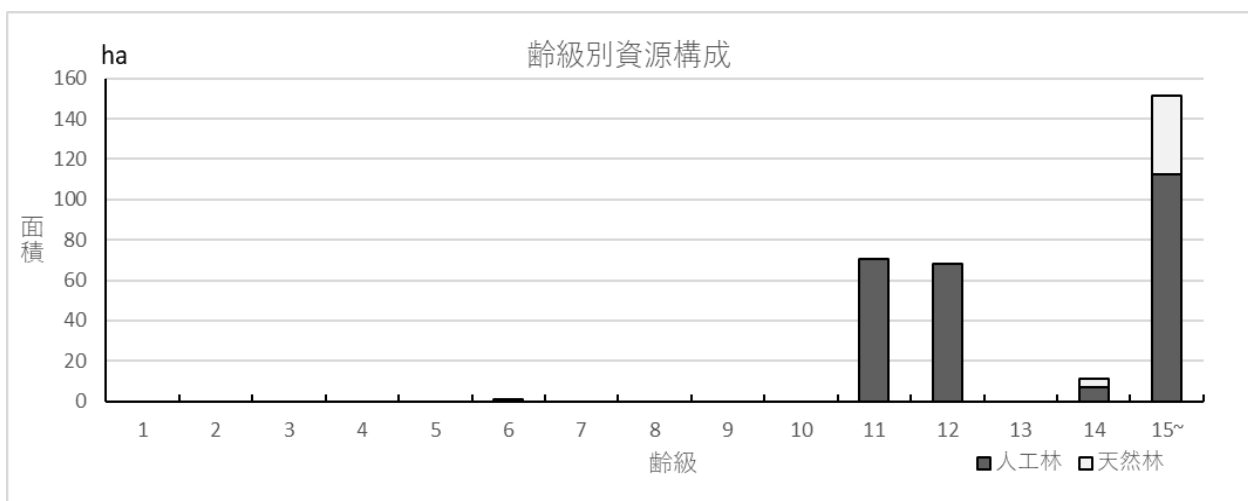
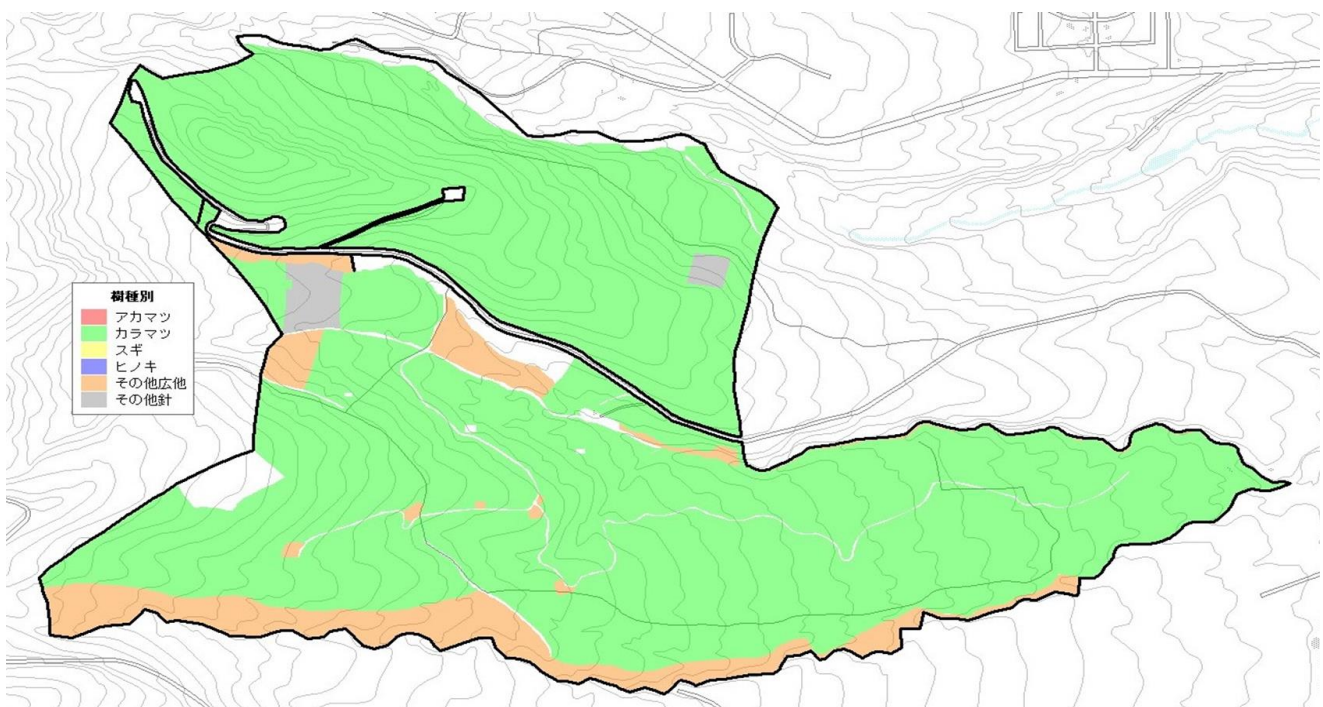
<森林整備の方向>

当県有林の地位はⅣ以下であることから、長伐期施業を中心としたゾーニングとするとともに、中・下層の広葉樹の生長を観察しながら、上層のカラマツの収穫を図りつつ、自然林化を進めます。また、試験地を設けカラマツ林の天然下種による更新の可能性を検証しています。

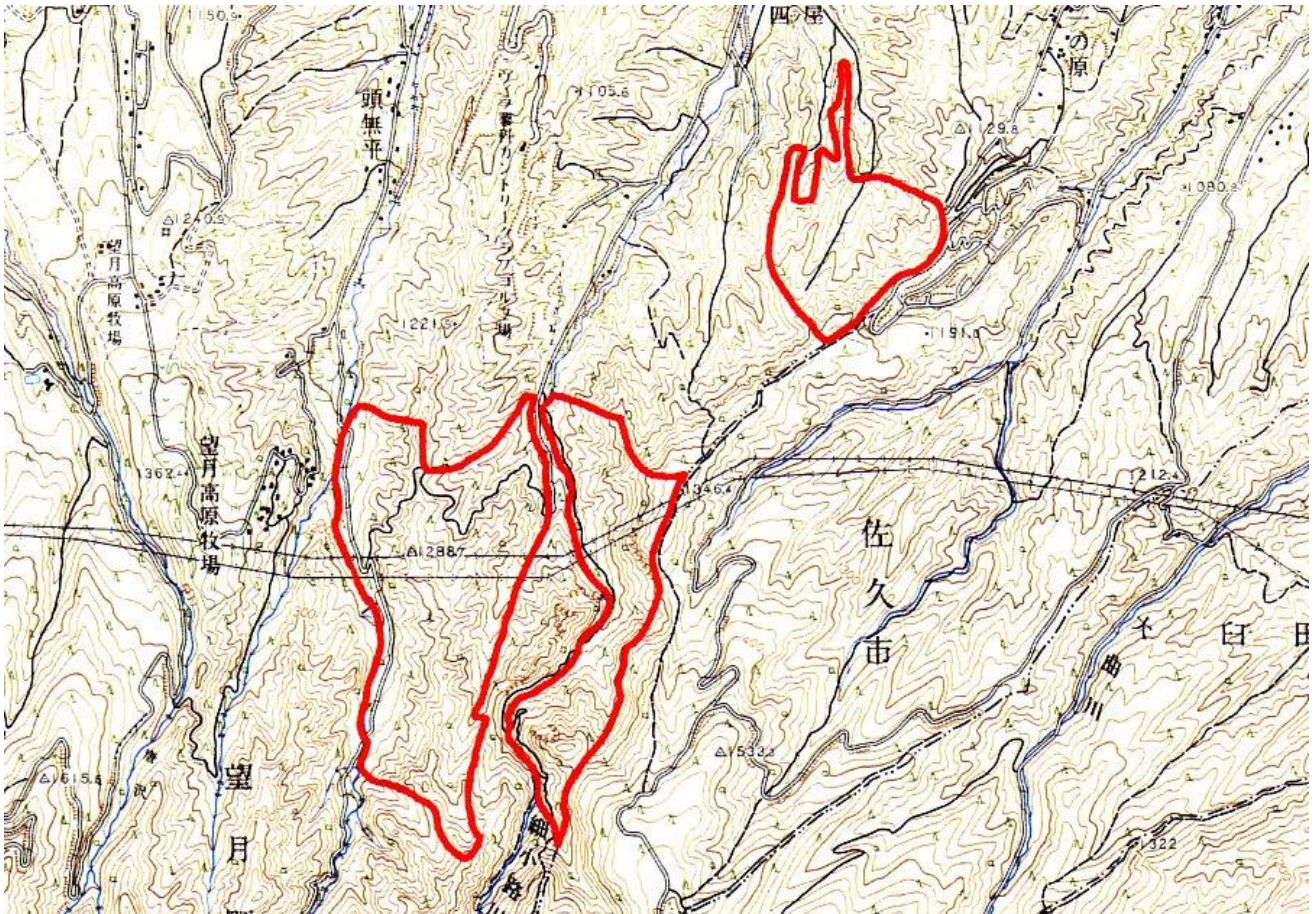
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
317.31				238.99	8.21	38.51	31.6
100%				75%	3%	12%	10%



春日県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(小諸、蓼科山)を使用したものである。

<沿革>

春日県有林は佐久市（旧望月町）の南西にあり、蓼科山に源を発する鹿曲川と細小路川に沿って分布する県有林で、標高1,000mから1,440mに位置しています。

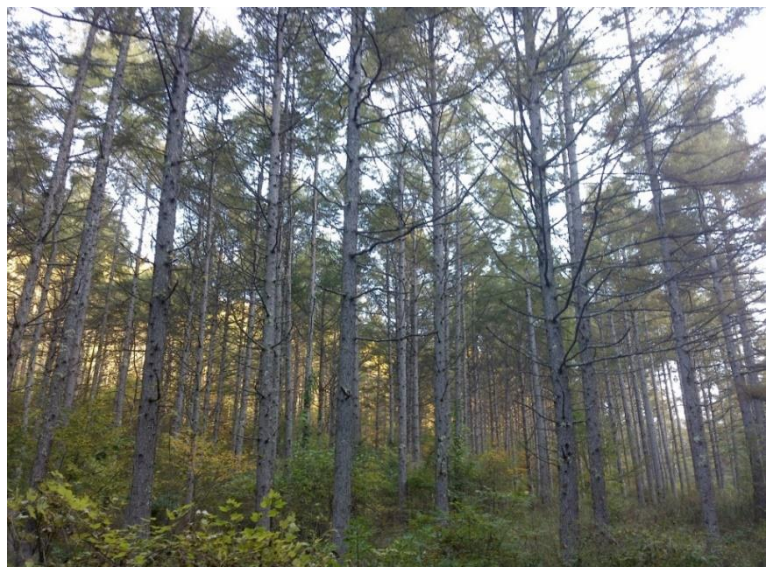
明治38年12月26日、本県で2番目に創設されました。かつては入会地として利用された山で、購入当時はそのほとんどが未立木地でした。

<現況・特色>

大半がカラマツの造林地ですが、細小路川沿いには大面積にわたりサワラやドイツウヒが植栽されています。

また、林道密度が26.6m/haと県有林の中でも比較的高く、搬出間伐・主伐時に十分対応できる路網基盤を持ち合わせています。今後は重点的に木材生産を行っていく林分を中心に、高密度路網となる基盤整備づくりを進め、森林資源のさらなる有効活用を目指します。

また、数年前からカラマツに対するシカの角こすりが目立つようになったことから、成長の状況を把握しつつ、今後の施業についての検討を進めます。



<森林整備の方向>

路網が比較的整備されていることから、傾斜が緩い林分では効率的木材生産型施業、傾斜が急な林分では帯状伐採を中心に、主伐による木材利用を積極的に展開します。主伐後はカラマツの再造林を行います。

路網から離れ、傾斜が急な林分は、針広混交林化による公益的価値の高い森林を目指します。

<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
394.66		17.79	28.47	260.52	6.41	12.3	69.17
100%		5%	7%	66%	2%	3%	18%

